東京慈恵会医科大学
葛飾医療センターニュース
Katsushika Medical Center News
2019
No.51
summer

編集発行責任者　吉田 和彦
〒125-8506　東京都葛飾区青戸6-41-2
TEL:03-3603-2111(代表)
URL:http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/
E-mail:aotokouhou@jikei.ac.jp

INDEX

01. 診療部長就任のご挨拶
02. 診療部長就任のご挨拶
03. 第2血管内治療室稼働
04. 公開セミナー、認定看護師の取り組み、部署紹介

診療部長就任ご挨拶

4月1日付で救急部部長に就任いたしました行木（なめき）太郎です。地元青戸で生まれ育ち、父がクリニックを開業していたこの地で、部長として地域の皆様の為に働けることに運命的なものを感じ、非常に光栄なことであると考えております。

救急診療は『病院の顔』、『病院の社会に対する窓口』という黒田前部長の示した位置付けを継承し、本学の理念である『病気を診ずして病人を診よ』の元、心のこもった医療を皆様に提供させていただきたいと思います。

今回、柏病院から佐藤浩之医師が異動し、新たに救急部の仲間として加わりました。同人はDMATのインストラクター資格を持つなど災害医療のエキスパートであり、当院の災害医療計画策定に当たって非常に大きな戦力になると期待をしております。

救急部は平時の救急診療に加え、万が一の大規模災害発生時の災害医療においても地域の皆様のお役に立てるようスタッフ一同より一層の努力をしてまいります。

救急部
行木 太郎

本年4月より腎臓・高血圧内科診療部長として就任いたしました丹野です。

平成8年に慈恵医大を卒業後、慈恵医大附属病院および関連施設、聖路加国際病院などで腎臓病診療に従事してまいりました。

当科は、腎臓専門医、透析専門医、腎移植認定医が常勤しておりますので、高血圧や電解質異常に加え、病初期の検尿異常から腎不全医療にいたるまで、腎疾患診療に関する全ての領域をカバーすべく、日々の診療にあたっております。また、腎生検や透析関連手術などの手技も盛んで、これらの手技に関する全国規模の集会が、毎年当院で開催されるような拠点施設でもあります。

とにかく風通し良く、気軽になんでも相談していただけるような存在でありたいと思っておりますので、腎臓病治療の拠点として、ご活用いただけましたら幸甚です。

腎臓・高血圧内科
丹野 有道

診療部長就任ご挨拶

病院病理部
野村 浩一

4月1日付で病院病理部診療部長に就任いたしました野村浩一です。病院病理部は直接患者さんの診療にあたるのではなく、各診療科の診断･治療にとって必要な病理診断を提供する診療科です。
そのため、先生方より直接ご依頼をお受けすることはありませんが、適切な治療のため、正確で迅速な病理診断を行うよう努めていきたいと思います。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

放射線部
辰野 聡

このたび平成30年4月1日から葛飾医療センター放射線部部長に就任しました辰野聡です。1985年卒で今年還暦を迎えます。慈恵医大には15年ぶりの復帰で右も左も分からない有様ですが、スタッフの皆様に支えられて、少しずつ地に足がついて参りました。
放射線科は大きくX線写真やCT、MRI、核医学検査などを駆使して病気の診断に従事する診断部門とがんを切らずに直す治療部門に分かれます。診断部門では安全に正確な検査を迅速に施行できるよう日々努力しております。治療部門には最新の治療装置が導入され、がん診療に不可欠なピースとなっています。また、画像診断の手技を治療に応用した血管内治療にも積極的に関わっております。
葛飾医療センターのすべての診療科を全力でバックアップする所存ですが、さらに、地域の医療機関との連携を密にし、当院放射線部の潜在的なパワーを還元するよう努めてまいりたいと考えています。
今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。

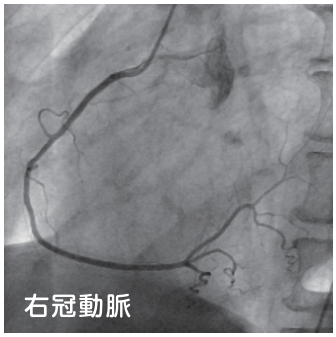
眼科
林 孝彰

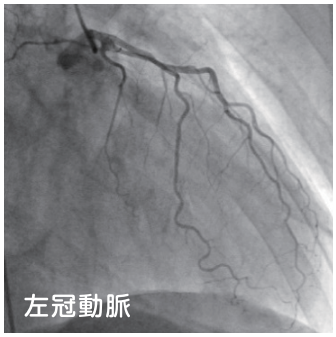
2019年1月より髙橋現一郎･前診療部長の後を引き継ぎ、診療部長を就任しました。
葛飾医療センターの外来患者さんのおよそ8割が葛飾区住民ということで、地元から信頼されている病院と感じております。
診療スタッフは、他に3名の助教と2名の後期研修医で構成されています。やる気のあるスタッフに囲まれ、日々楽しく過ごさせていただいております。赴任して3年が経過し、葛飾医療センターでは特に地域連携と他科との連携が重要であると実感しています。
診療と教育はもちろんですが、大学附属病院の使命の1つである研究にも少し時間を割いて頑張りたいと思います。今後もご指導いただけますようよろしくお願いいたします。

皮膚科
簗場 広一

今年1月より皮膚科診療部長として就任いたしました。当科は総勢8人のスタッフで診療にあたっております。
若手中心のメンバーでありますが、みな非常に優秀であり、出身大学も慈恵だけではなく、島根大、金沢大、名古屋大、藤田医大、千葉大とさまざまです。
一般皮膚疾患の診療だけでなく、乾癬やアトピー性皮膚炎、化膿性汗腺炎の生物学的製剤治療、膠原病診療、手術など幅広い疾患の治療に対応いたしております。地域連携を強化しつつより高度な診療を目指していきます。

第2血管内治療室が稼働しました!


右冠動脈


左冠動脈

2018年12月11日より稼働スタートしました。
装置名はフィリップス・ヘルスケアのAzurion7（アズリオン）。バイプレーンタイプと呼ばれる2管球のCアーム仕様になっており、同時に2方向からの透視・撮影が可能となっています。
この装置は心臓を中心としたカテーテル検査や血管内治療に大活躍します。最新のハードウェアとソフトウェア（ClarityIQ）の搭載により従来装置より大きく画質が向上し、今まで見えなかった細かな血管まで観察可能となりました。また、X線検出効率が向上したため被ばく線量を大幅に低減させることができました。
これにより患者さんおよび術者にもやさしい検査・治療が可能となりました。また、第1血管内治療室も2019年3月のバージョンアップにより高画質・低被ばくに対応しました。

新装置の被ばく低減率

頭部領域	心臓領域	腹部領域	四肢領域
60%	66%	50%～70%	83%

循環器内科
診療部長
関 晋吾

この装置は
①心筋梗塞や狭心症へのステント治療
② 不整脈に対するカテーテル・アブレーションに威力を発揮しています。
当院では高齢化に伴い患者数が増加している心房細動、WPW症候群、心室期外収縮、心室頻拍などあらゆるタイプの不整脈の治療を行います。
特に心房細動に対するアブレーション治療では豊富な症例数を有します。

2019年度公開セミナーについて

第52回 | **日時** 2019年6月8日（土）　●14:00～15:30

テーマ 「いびき？ 無呼吸？ それって何がアブナイの？」

会場 5階講堂　**司会** 耳鼻咽喉科　飯田 誠　診療部長

演者
❶耳鼻咽喉科　渡邊 統星　診療医員
「いびき？無呼吸？それって何がアブナイの？」
❷精神神経科　山寺 亘　診療部長
「良い睡眠と悪い睡眠、よく眠れないとどうなるの？」

第53回 | **日時** 2019年9月14日（土）開催予定［演題：肺がん予定］

第54回 | **日時** 2020年2月8日（土）開催予定［演題：未定］

認定看護師の取り組み

感染管理認定看護師　松澤 真由子

病院で流行る「感染症」は、様々なものがあります。毎年流行するインフルエンザやノロウイルスなどの流行性感染症や、治療のための点滴や処置に伴って発症する医療関連感染症、薬剤耐性菌感染症などが代表的です。米国の病院では、院内感染によって年間7万5千人の方が死亡したと報告されており、これらの多くは防止できたと指摘されています（CDC,2011）。

感染管理認定看護師は、こういった感染症が病院内で発生・拡がらないために、感染対策教育を行い、手技を確認し、感染症の発生状況を観察・分析し、問題点を還元するという一連の過程を担っています。また、職員が感染症に罹らないよう、ワクチン接種のスケジュールを立てたり、院内が清潔に保てるように清掃の手順を確認したり、巡視したりする役割を担っています。

F.ナイチンゲールは「病院が備えているべき第一の必要条件は、病院は病人に害を与えないことである」と述べました。病気を治すために入院される患者さんに、感染症という害を与えないことが、自分自身の課題であり、使命であると思っています。

部署紹介 / 業務課

片 悦子 課長
（業務課）

葛飾医療センターの事務部門である「業務課」をご紹介いたします。
業務課では患者さんの受診手続き、入退院手続き、会計・診療報酬請求に関する業務を行っています。
また、各種診療記録の管理、各種統計資料の作成および分析も当課で行っており、医療情報というビッグデータを適切に管理し、将来を見据えた病院経営やさらなる医療の質向上にいかに活用するかが求められております。
さらに、医師の事務作業をサポートする医師事務支援室も業務課管轄の部署となります。医師が患者さんの診療に十分に注力できるよう、診断書等の文書作成補助やがん登録制度等における診療データの入力補助を行っており、近年求められている医師の働き方改革の推進の一翼を担っています。
総勢46人と当院の事務部では最も大きな部署になりますが、各スタッフが協力体制をとりながら、自己のスキルアップと患者さんのサービス向上に努めています。